

# ピックアップ1

## 身近に起きているこんな事故

東京消防庁管内では、令和元年中に日常生活の中で起きる様々な事故により約14万5千人が救急搬送されています。ここでは、「工作中的事故」と、乳幼児の特徴的な事故である「窒息や誤飲の事故」の発生状況を取り上げました。

### 工作中的事故

#### 1. 年別救急搬送人員

平成27年から令和元年までの5年間で、24,829人が工作中的事故により救急搬送されています。令和元年は5,314人が救急搬送されています（図1）。

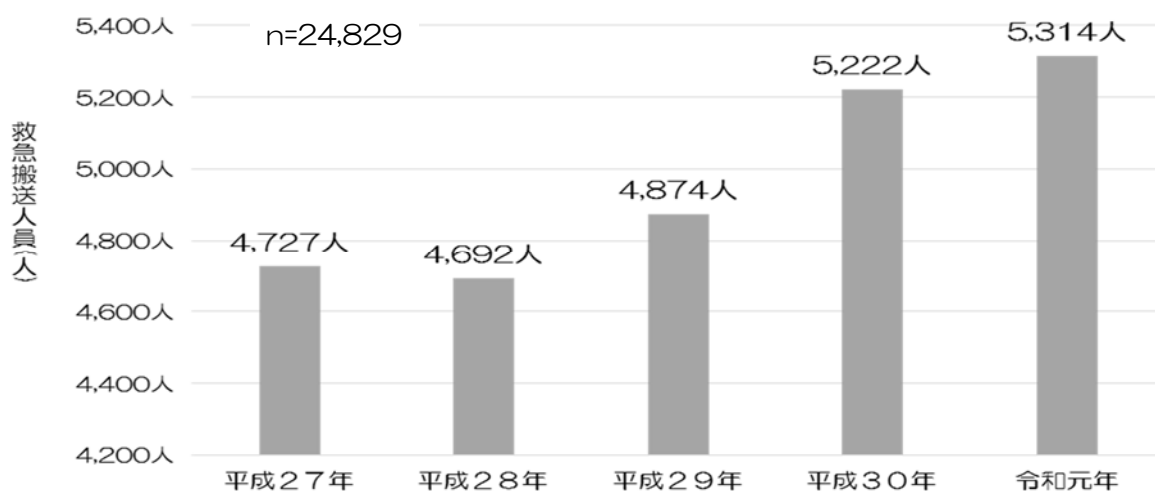


図1 年別の救急搬送人員

#### 2. 年代別救急搬送人員

50代が最も多く1,071人、次いで40代が1,058人となっており、20代から60代にかけて多くなっています（図2）。

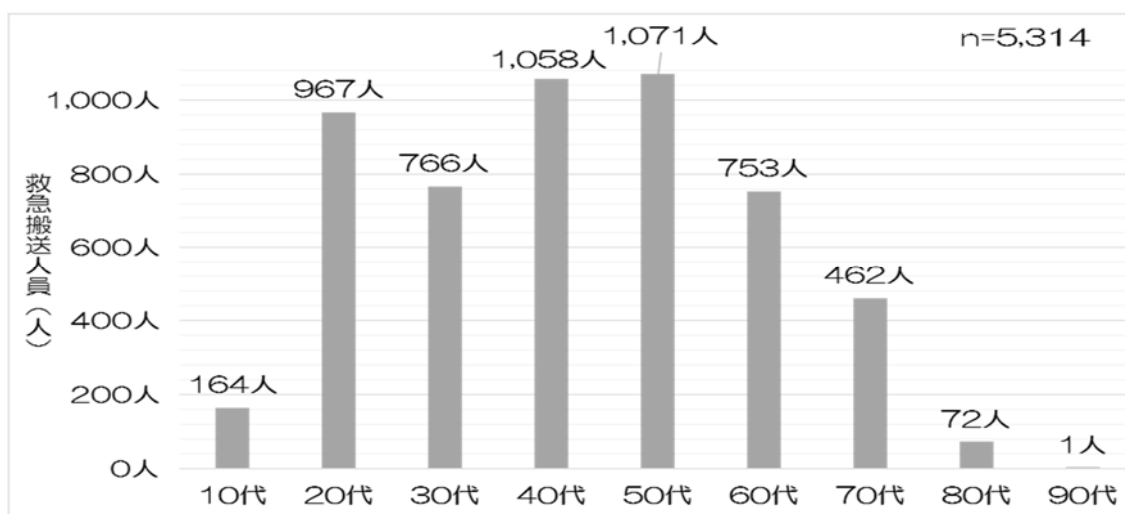


図2 年代別救急搬送人員（令和元年中）

### 3. 事故発生場所別の救急搬送人員

事故発生場所別をみると、会社・公共施設等が1,746人と最も多く、次いで店舗・遊技施設等が1,250人と多くなっています（図3）。

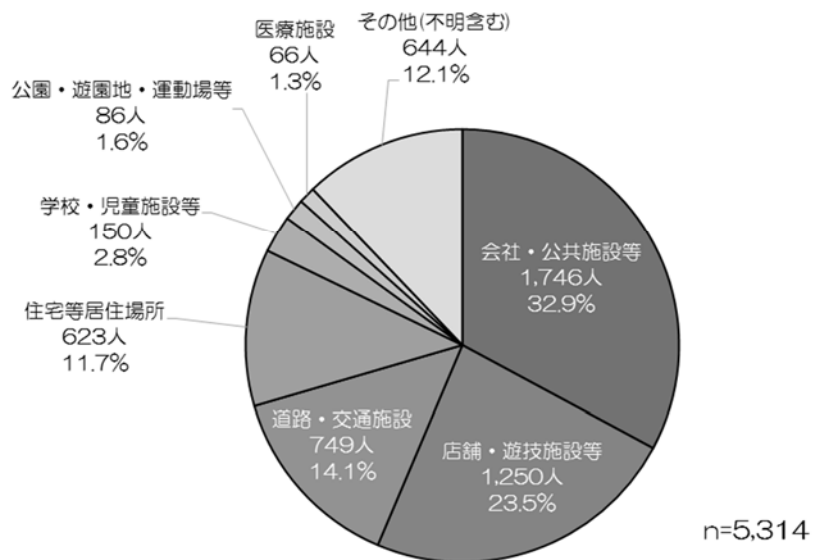


図3 事故発生場所別の救急搬送人員（令和元年中）

### 4. 初診時程度別救急搬送人員

救急搬送時の初診時程度をみると、約4割が入院の必要がある中等症以上と診断されており、生命の危険が高い重症と診断されている事例もあります（図4）。

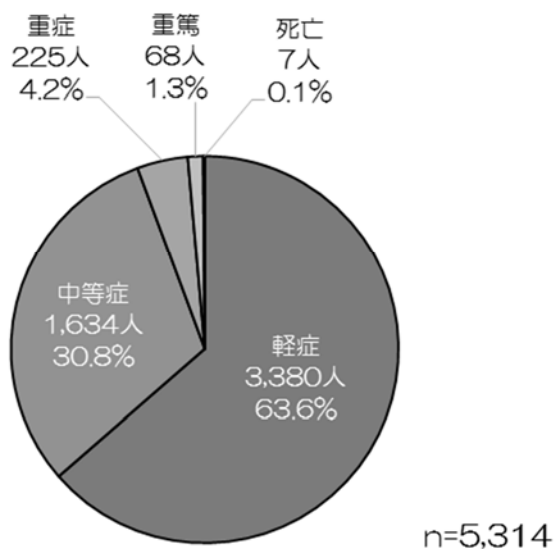


図4 初診時程度別救急搬送人員（令和元年中）

## 5. 関連器物別事故発生状況

関連器物別の事故発生状況（上位10こ）をみると、脚立・踏み台・足場が403人と最も多く、ついで自動車の308人となっています（図5）。

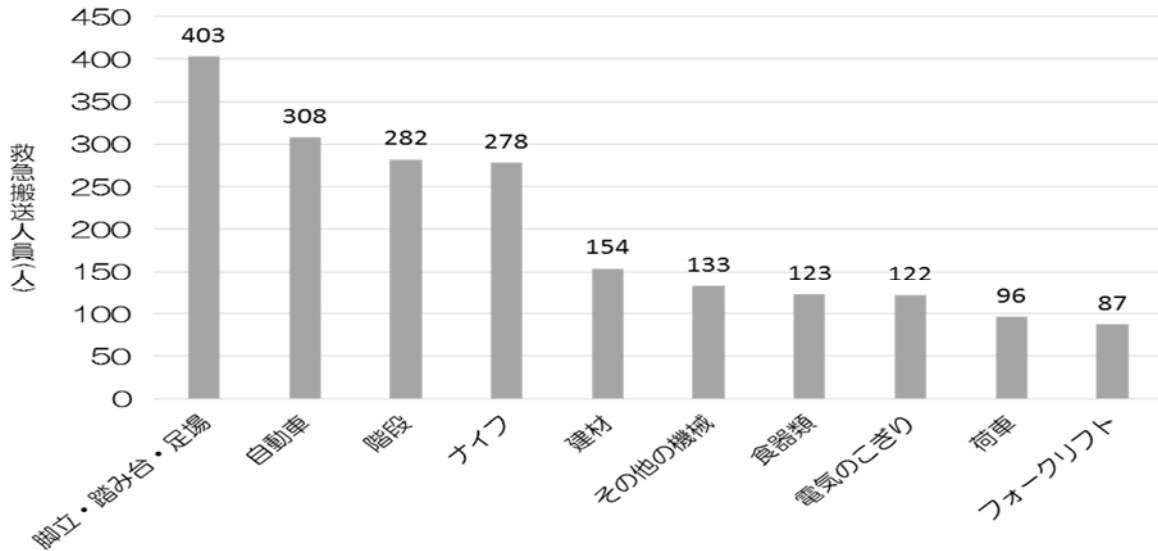


図5 関連器物別事故発生状況（令和元年中）

## 6. 事故種別ごとの救急搬送人員

事故種別ごとの救急搬送人員では、「落ちる」事故が最も多く、次いで「切る・刺さる」事故が多くなっています（図6）。

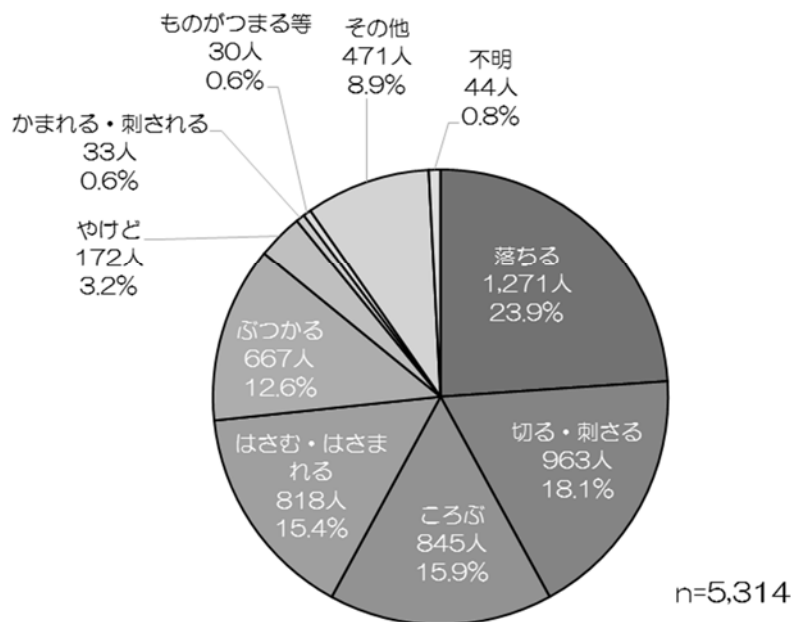


図6 事故種別救急搬送人員（令和元年中）

## 7. 事件事例

### 【事例1】

屋根を修理しようと脚立に登った際に、脚立が倒れて背中からコンクリートの地面に墜落した（60代 重篤）。

### 【事例2】

機械の掃除中、機械の電源を切らないまま、手をベルト内に入れてしまい指を切断した（60代 中等症）。

### 【事例3】

仕事場にて、濡れた床で滑って転倒し歩くことができなくなった（70代 中等症）。

### 【事例4】

階段の清掃中に、足を踏み外して転落し、頭部と顔面を受傷した（50代 中等症）。

# 乳幼児の窒息や誤飲の事故

## 1. 年別搬送人員

平成27年から令和元年までの5年間に、6,180人の乳幼児が、窒息や誤飲等\*により医療機関に救急搬送されています（図7）。飲み込んだものによっては、体の組織を破壊するなど重大な事故となる恐れもあります。

\*耳や鼻等に入ったものを含む

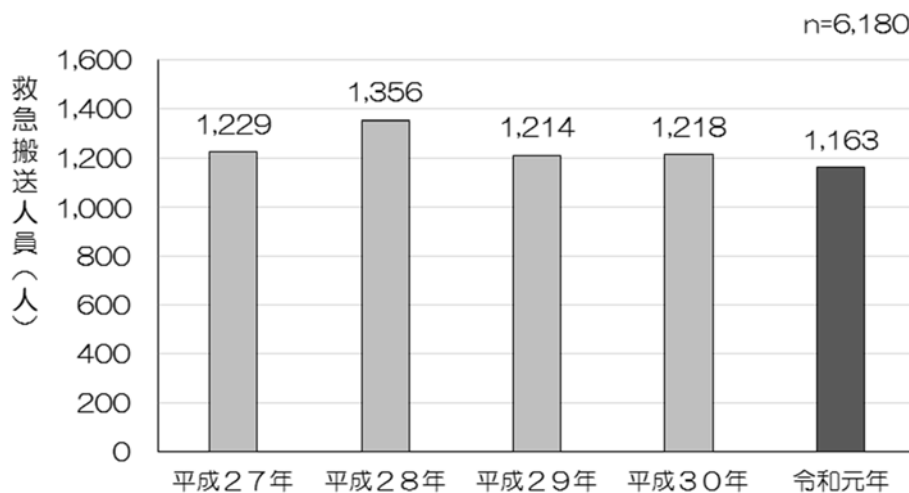


図7 年別の救急搬送人員

## 2. 年齢別搬送人員

年齢別では、0歳児の救急搬送が最も多く、成長とともに減少しています（図8）。

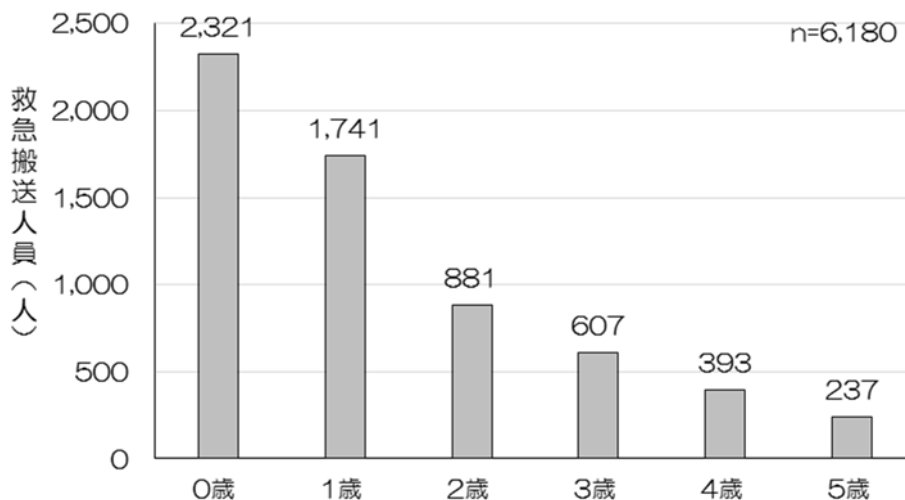


図8 年齢別救急搬送人員

### 3. 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所が全体の9割以上を占めています（図9）。

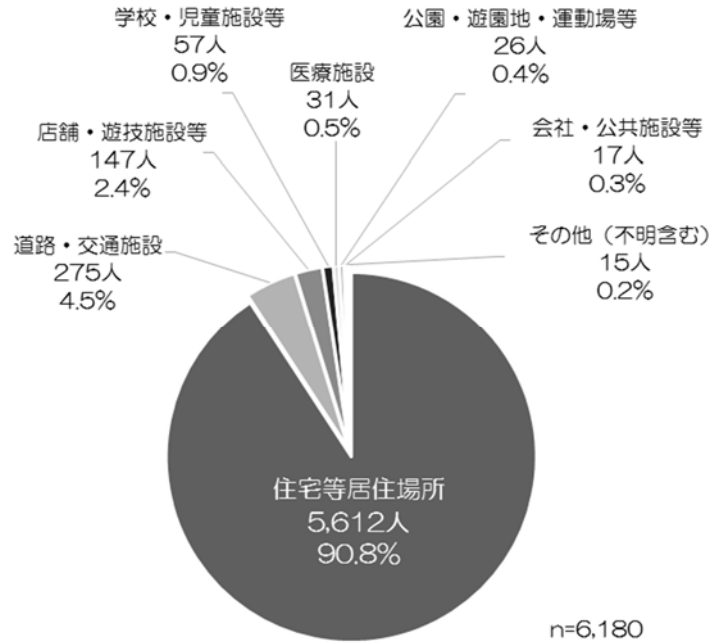


図9 発生場所別救急搬送人員

### 4. 初診時程度別救急搬送人員

初診時程度別では、軽症が約9割を占めており、入院の必要がある中等症以上は約1割を占めています（図10）。

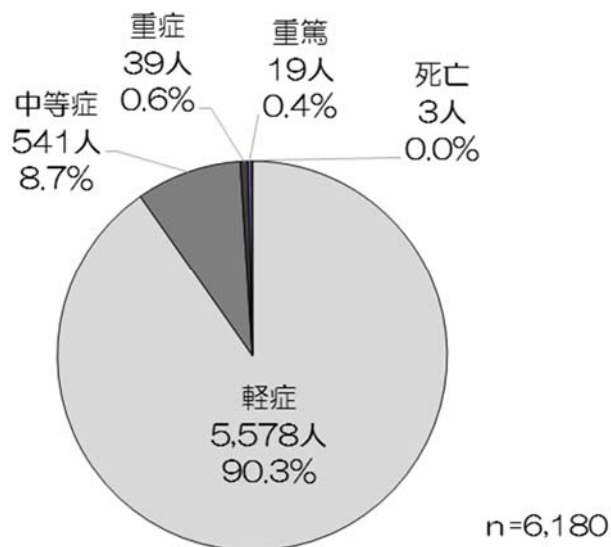


図10 初診時程度別救急搬送人員

## 5. 関連器物別救急搬送人員

関連器物別では、食品・菓子や玩具が多いですが、乳幼児の窒息や誤飲に係る製品等は、菓子の包みやたばこ、薬剤等、様々です（図11）。

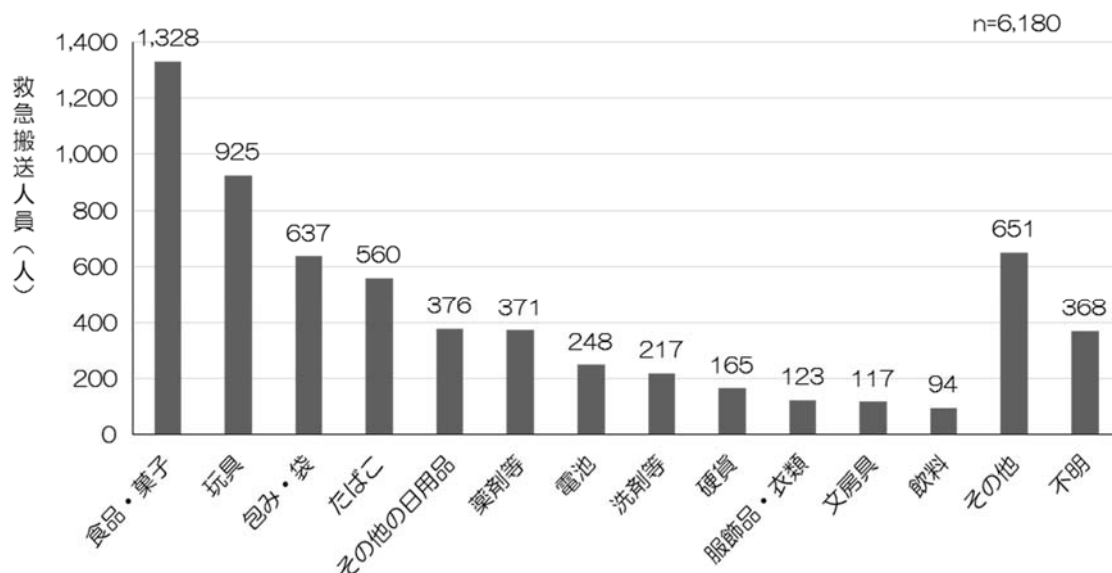


図11 関連器物別救急搬送人員

## 6. 窒息や誤飲の事故の事例

### 【事例1】

自宅で親が料理をしている間に、親が病院から処方されている薬を子どもが飲んでしまった（1歳 中等症）。

### 【事例2】

親が目を離したすきに自宅のゴミ箱に捨ててあった電子たばこの吸殻を、子どもが飲み込んでいた（8か月 重症）。

## 7. 窒息や誤飲の事故を防ぐために

- 家の中では、子供の目の高さで危険がないかチェックしましょう。  
子供が飲み込めそうなものが、子供の手の届くところがないか日頃から整理整頓をこころがけましょう。
  
- 飲み込むと危険性が高いものを知っておきましょう。  
ボタン電池：ボタン電池は放電能力が高いため、非常に短時間で消化管壁に潰瘍を作ります。  
また、直径が大きく食道にとどまる可能性が高いため、誤飲すると死に至るおそれがあります。  
(出典：東京都生活文化局消費生活部生活安全課 ボタン型電池 コイン型電池を子どもにさわらせないで！ リーフレット)
  
- 灯 油：胃から逆流すると気管に入りやすく、気管に入るとひどい肺炎を起こします。キャンドルオイルも、これと同じ状況で、肺炎を起こします。





# ピックアップ2

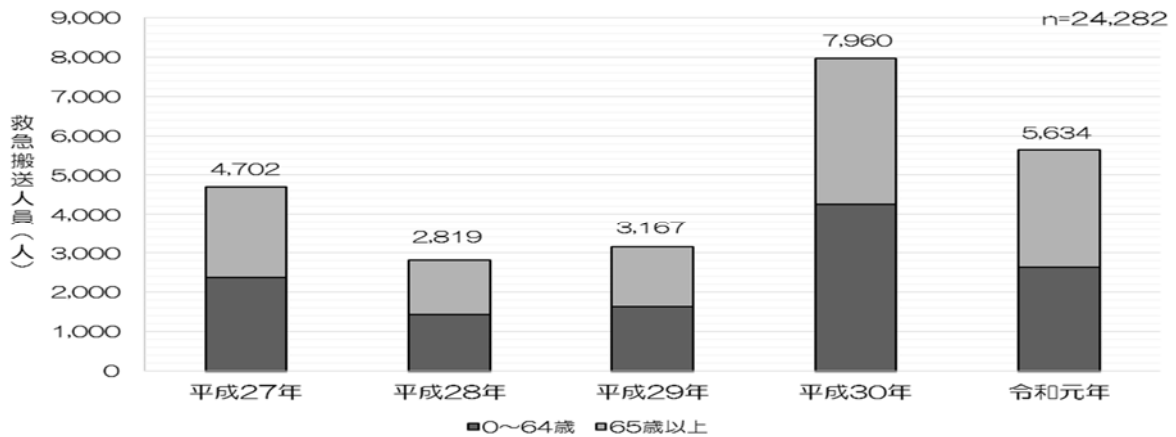
## 熱中症による救急搬送

### 1. 年別・月別の発生状況

(→P.17事故種別「その他」等により救急搬送されたもの)

平成27年から令和元年までの過去5年間（各年6月から9月）に24,282人が熱中症（疑い含む。）により救急搬送されています。令和元年の救急搬送人員は、5,634人で、65歳以上の高齢者の割合は、約5割を占めています（図12）。

また、月別では、各年とも7月、8月に多く発生していますが、梅雨時期の6月や残暑の9月にも発生しています（図13）。



	0～64歳	65歳以上	総計	65歳以上割合
平成27年	2,372人	2,330人	4,702人	49.6%
平成28年	1,428人	1,391人	2,819人	49.3%
平成29年	1,633人	1,534人	3,167人	48.4%
平成30年	4,249人	3,711人	7,960人	46.6%
令和元年	2,629人	3,005人	5,634人	53.3%
計	12,311人	11,971人	24,282人	49.3%

図12 過去5年間（各年6月～9月）の年齢層別の救急搬送人員

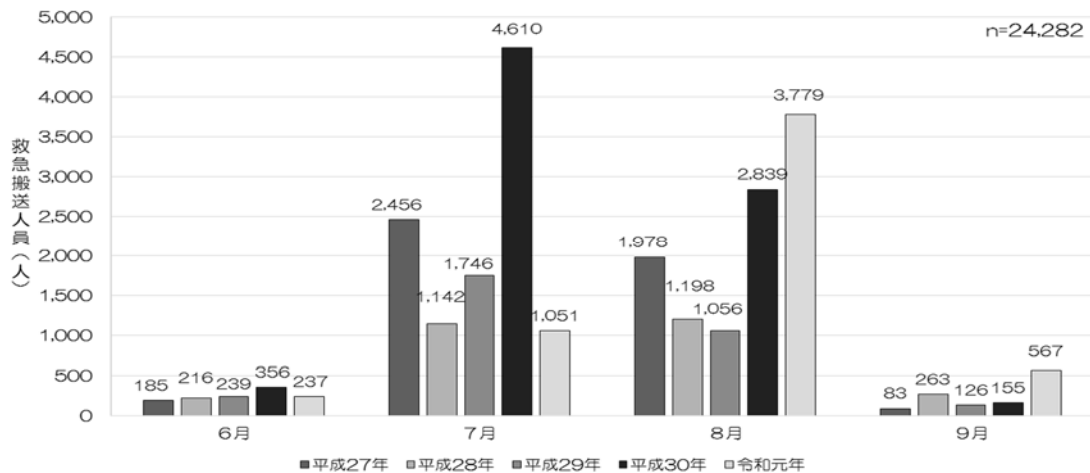


図13 過去5年間（各年6月～9月）の月別救急搬送人員

## 2. 搬送人員と気温

熱中症による救急搬送人員と気温の関係をみると、気温が高い日が続いた7月下旬から8月上旬や、梅雨明け後の気温の高い日に多く発生しています（図14）。

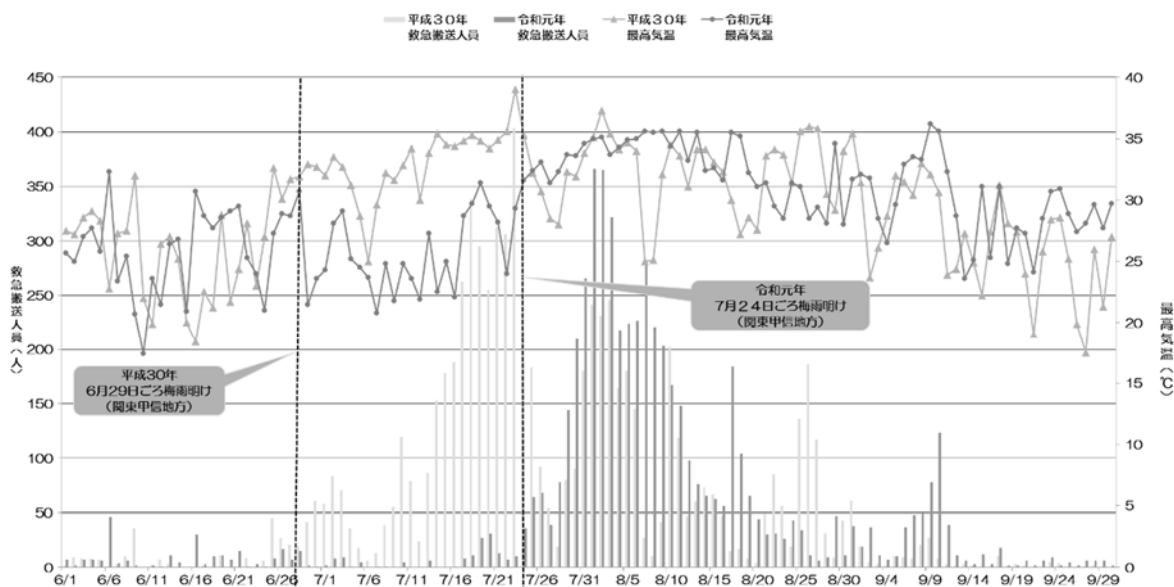
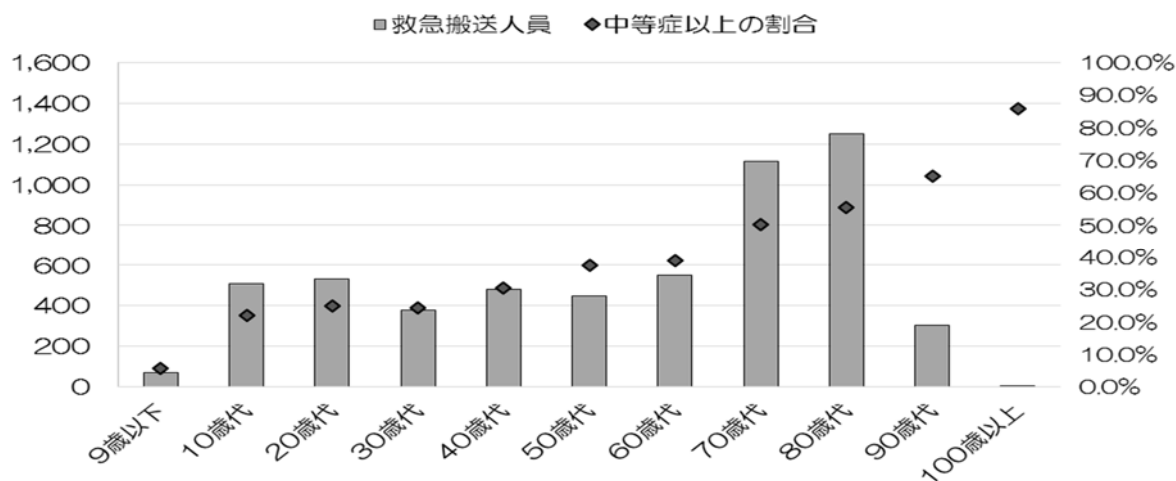


図14 救急搬送人員と気温（令和元年6月～9月）

## 3. 年齢層別搬送人員と中等症以上の割合

熱中症による救急搬送人員と中等症以上の割合をみると、70代、80代の搬送が多く、加齢とともに中等症以上の割合が高くなっています（図15）。



	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳以上
救急搬送人員	69人	510人	530人	376人	480人	448人	550人	1,114人	1,248人	302人	7人
中等症以上の割合	5.8%	22.2%	24.9%	24.5%	30.4%	37.5%	38.9%	50.4%	55.6%	65.2%	85.7%

図15 救急搬送人員と中等症以上の割合（％）（令和元年6月～9月）

## 4. 発生場所別搬送人員

熱中症による救急搬送人員と発生場所をみると、住宅等居住場所での発生が最も多く、全体の約4割を占めています（図16）。

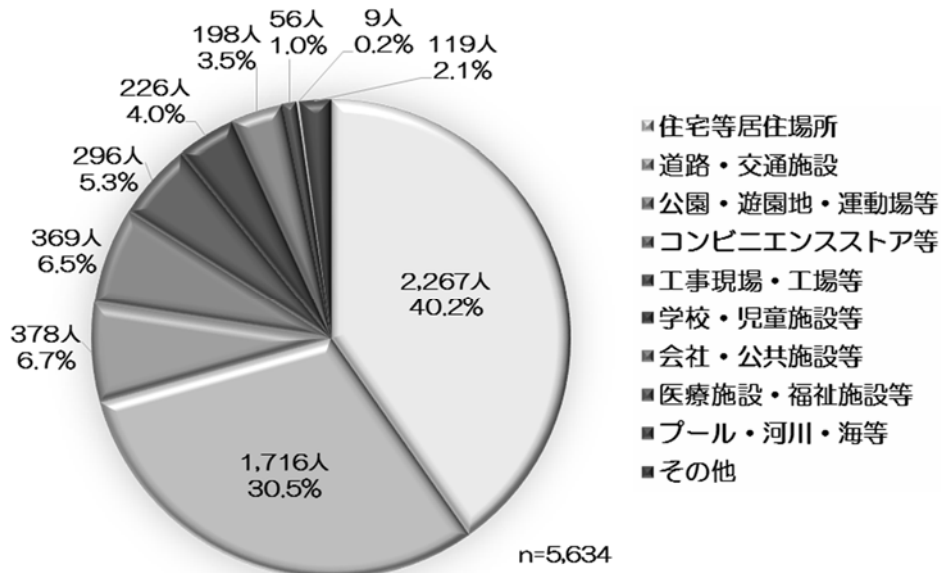


図16 発生場所別搬送人員（令和元年6月～9月）

## 5. 熱中症の救急搬送事例

### 【事例1 乳幼児が車の中で熱中症になった事例】

母親が車外にいる状況で車内にいた子供が、車の鍵をかけてしまった。

（令和元年7月 1歳 軽症 気温32.5℃ 湿度69%）

### 【事例2 運動中に熱中症になった事例】

屋外で体育の授業終了後、教室に戻った後、椅子に座った状態で嘔吐した。

（令和元年9月 7歳 軽症 気温28.8℃ 湿度72%）

### 【事例3 室内で熱中症になった事例】

起床時から脱力感があり動く事ができず、様子を見るも症状が改善しない。

（令和元年6月 60代 中等症 気温26.0℃ 湿度76%）

※ 気温、最高気温、湿度は気象庁の気象統計情報の東京で測定した数値を使用しています。

## 6. 熱中症予防のポイント

- 暑さに身体を慣らしていく。
- 高温・多湿・直射日光を避ける。
- 水分補給は計画的、かつ、こまめにする。
- 運動時などは計画的な休憩をする。
- 規則正しい生活をする。
- 乗用車等の車内の温度は短時間で高温になるため、子供だけにしない。
- 子供は大人よりも身長が低いため、地面から受ける輻射熱が高く、高温環境にさらされている。

## 7. 応急手当

### 熱中症の応急処置

もし、あなたのまわりの人が熱中症になってしまったら……。落ち着いて、状況を確認してから対処しましょう。最初の措置が肝心です。

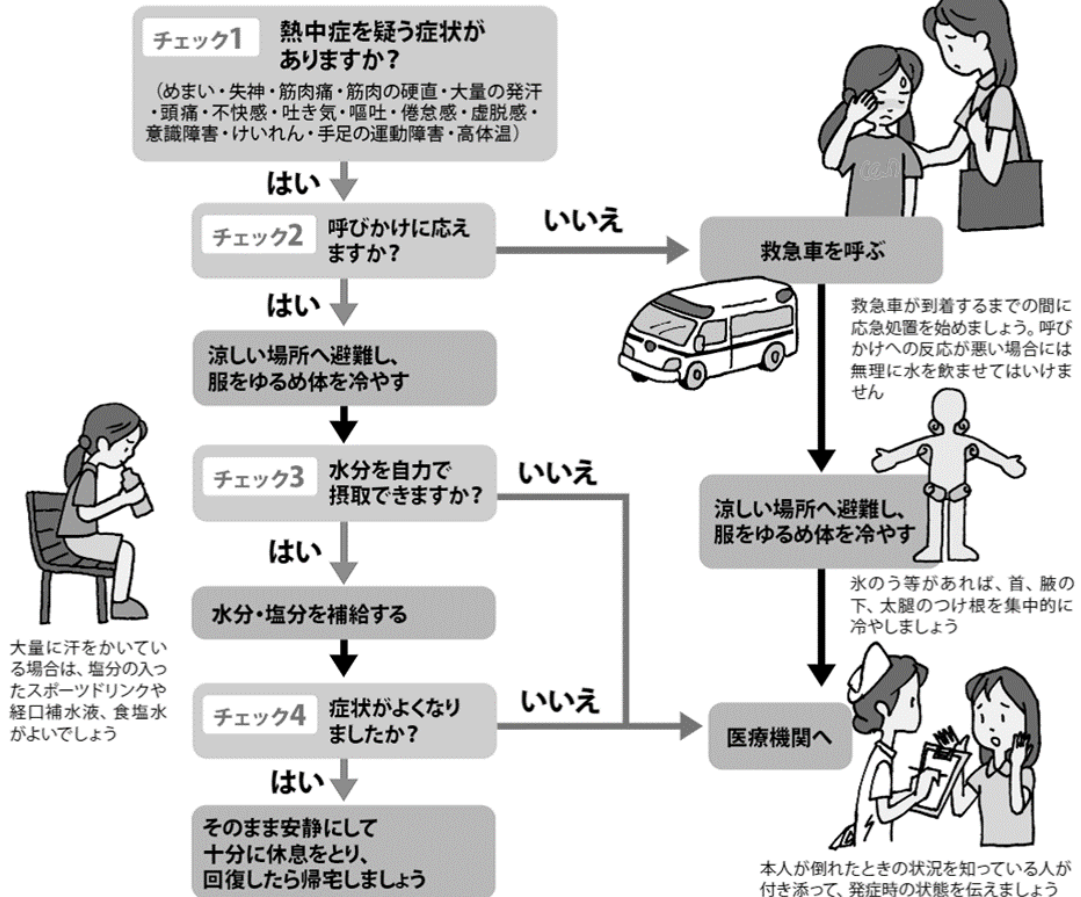


図2-7 熱中症を疑ったときには何をすべきか

※ 参考文献：熱中症環境保健マニュアル2018（環境省）